

【UNIX 基本コマンドの解説】

RAINBOW ガイド-UNIX 操作入門編- p.16 表 5

このほかのコマンド : cal, history, date, ps, 入出力のリダイレクション

【ディレクトリの作成とディレクトリ間の移動】

- (1) 下のような、ディレクトリの構造を作り、前回作った Fortran のプログラムソースファイル wasa.f および実行ファイル wasa を新しく作った 030507 の下に移動する。

使うコマンド : % mkdir , % cd , % mv (間違えた場合は % rm , % rmdir も必要)

コマンド : [% mkdir Info]

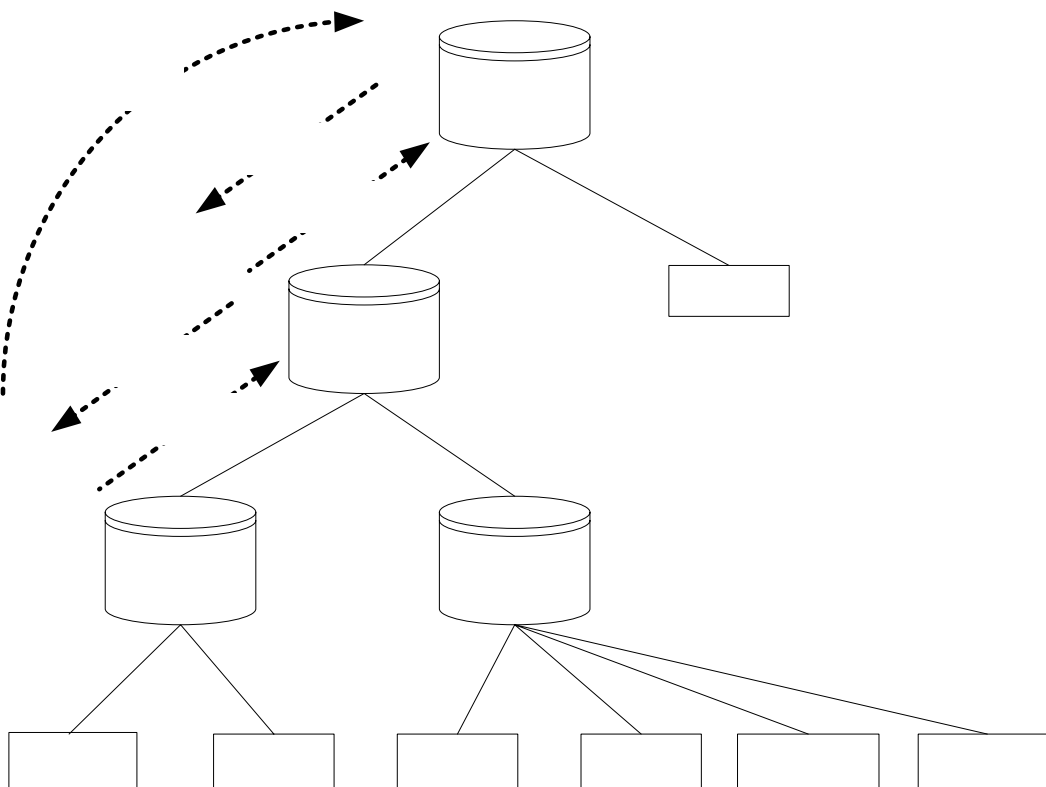
コマンド : [% cd Info]

コマンド : [% mkdir 030507]

コマンド : [% cd 030507]

コマンド : [% mv ../../wasa.f .]]

- (2) %cd で自分のホームディレクトリに移って %ls R で下記の構造ができたか確認する。



【emacs 基本コマンドの解説】

RAINBOW ガイド-UNIX 操作入門編- p.65 表 17

【emacs とファイルの連結練習】

- (1) name.txt というファイルを作り、自分の名前を記入する。

- (2) `address.txt` というファイルをつくり , 自分のメールアドレスを記入する .
- (3) `phone.txt` というファイルをつくり , 自分の電話番号を記入する .
- (4) 上記 3 つのファイルをまとめて , `profile.txt` というファイルを作る .
(% `cat` ファイル名 >> `profile.txt` というコマンドを使用)
- (5) `profile.txt` を `emacs` で開いてメールアドレスが記入してある行を電話番号が記入してある行の後に持ってくる .
- (6) `profile.txt` のコピーを `profile.bck` という名前でバックアップを取っておく .
コマンド : [`% cp profile.txt profile.bck`]
- (7) `cal 2000 > profile.txt` として , `profile.txt` がどうなったかを `cat` で確認する .
- (8) 2000 年から 2002 年までのカレンダーを `profile.txt` にまとめて `cat` と `more` の 2 種類の方法でファイルの内容を確認する .
- (9) `profile.txt` を消して , バックアップファイルとしてとってあった `profile.bck` を `profile.txt` という名前に変更する
コマンド : [`% rm profile.txt`]
コマンド : [`% cp profile.bck profile.txt`]
- (10) オンラインマニュアル表示コマンド `% man` で `ls` の使い方を表示する .